

## STYLE

### NEW SERIES

「THE CLUB」マネージングディレクター  
山下有佳子さんが、アップカミングな  
女性アーティストを紹介する連載がスタート

VOLUME 1

## WOMEN IN ART

無二の筆致で描かれる  
自然とともに生きる人間の姿

By Yukako Yamashita

## HIROKA YAMASHITA

山下紘加

山下紘加のスタジオは瀬戸内海沿岸に面した港街の一角にある。LA、ニューヨーク、ニュージャージーに数年ずつ暮らした彼女は「田舎暮らしが好きなんです」と話しながら、鮮やかな青色が眩しい児島湖のほとりに、小さなスタジオを構えている。

現在29歳の山下と出会ったのは、彼女がアメリカから帰国後に別府のアーティスト・レジデンスに住んでいたときだった。なんとなくインスタグラムで面白いアートがないか探していた私は、当時ベルリンのタニア・レイトン・ギャラリーで展示をしていた山下の作品を見つけた。薄い色彩が重ねられたなかに人々が立ち並んだ、夢か現実かわからない不思議な風景。何よりもその風景を録取するように画面いっぱい塗られた白い絵の具。抽象と

具象のまさに間を表現する山下の作品の圧倒的なユニークさに一目で心を奪われた。当時、美大を卒業したての日本人アーティストが、なぜ海を越えたヨー



ロッパのギャラリーでソロプロジェクトに選ばれているのだろうか？そして彼女のインスタグラムのフォロワーにはそのときすでにサイモン・ド・ビュリーやサーニャ・カンタロフスキーといったアート界のインフルエンサーたちが名を連ねていた。

2020年にはアートバーゼルにも出展。2021年1月に台北で参加した展覧会では作品が即日完売。彼女の作品には日本のみならず、香港、欧米からも問い合わせが絶えない。西洋画の系譜に日本画の画面構成を織り交ぜた独特な構図は、鑑賞者に見ているのか見られているのかわからなくなる浮遊感を味わわせる。作品の中で、山下は常に自然と人間のつながりを描き出す。

インタビュー日の直前、日本では国内オークションハウスを中心に若手アーティストの作品が軒並み高額で落札されていた。なかには4000万円を超えて落札される作品もあり、アート業界に驚きが走っていた。彼らと同世代である山下に、それについて聞くと「資本主義の象



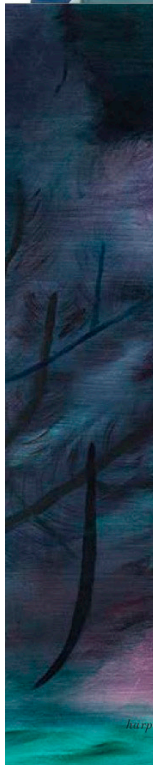
PHOTOS: YUKAKO YAMASHITA, © THE CLUB (C.R.O. K.O.F. H. DUSK OF THE PINE TREE),  
"THE SWIMMERS / THE SLEEPERS", © HIROKA YAMASHITA (BETWEEN THE ISLANDS)

Harper's Bazaar Japan, March 2021

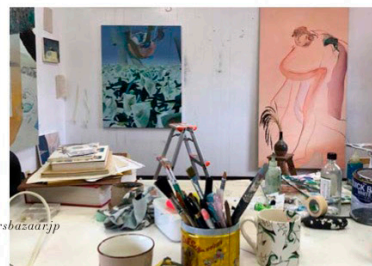
Kurfürstenstraße 156, 10785 Berlin

+49 (0)30 21 972 220, info@tanyaleighton.com, www.tanyaleighton.com

# Tanya Leighton



左ページ:「松の木の方刻 Dusk of the Pine tree」2019  
油彩、カンヴァス 139.3×121.3cm  
上奥:「Between the Islands」2019  
油彩、カンヴァス 179.8×141.5cm  
上:「the Swimmers / the Sleepers」2018  
油彩、カンヴァス 111×119cm 下:アトリエの一角



渡米したのは父が持っていたマライア・キャリアのCDで洋楽に興味を持ったことがきっかけという。岡山駅から車で40分ほどの場所にあるアトリエには制作中の絵画が。



「微だと思う」と落ち着いた声で一言。「私は自分の好きな作品を描いて、それをいいと思ってくれる人に出会えるのが幸せなんです。私にとってマーケットのトレンドは関係ない。公務員の両親に育てられた私は、幸運にも人生のなかで“女性だから〇〇”といった考え方を一度も求められたことはありません。今、マーケットでは女性アーティストがトレンドといわれることもあるけれど、自分にとってそれは全く関係ない」

小学校の同級生はわずか4人。兵庫の田舎で育った彼女をアートの世界へ進ませたのは、海外に行きたいという強い意志だった。進学校に通いながらも、このままではいけないという危機感を常に持っていたという彼女は、18歳のときに単身LAへ。彼女と初めて会う人は、何ごとにも自然にこなし、恵まれた人生を歩んできたように感じるだろう。それはまた淡い色づかいや、やわらかさに富んだ彼女の作品からも感じるはずだ。だが、10年の海外生活は苦勞だらけだった、と山下は笑いながら話す。

「私の作品に登場する“人”は、女性でも男性でもありません。そこにジェンダーという区別はなく、ただ自然とともに生きている人間の姿。人間の優しさを描きたいんです。私が思う優しさとは他者に与えること、そして他者の幸せや痛みを想像する力。格差や憎悪はまだなくなり、一歩外に出れば人と比べられる世の中で、自分が生きる喜びは、自然の姿や誰かのやさしさを目にしたときに思い出すことができるかもしれません」

激動する世界のなかで彼女が生み出すやさしい世界。それこそが、この29歳のアーティストが今、世界を魅了している理由なのではないだろうか。

**山下 結加**：1991年、兵庫県生まれ。2017年にNYのスクール・オブ・ビジュアル・アーツを卒業後、2019年にメイソン・グロス・スクール・オブ・ジ・アーツにてMFAを取得。自然と人のつながりや日常のシーンにある命の営みを通して、生命が共有している記憶や性質を表すイメージの構築に取り組む。

**山下有佳子**：1988年、東京生まれ。サザビーズロンドンを経て、サザビーズジャパンにて戦後日本美術の取り扱い拡大などに携わる。2017年より、アートギャラリー「THE CLUB」のマネージングディレクターを務める。2020年、京都芸術大学(旧京都造形芸術大学)の客員教授に就任。

▶「コスモスは悪い出した」3/27～5/7、THE CLUB(銀座) 事前予約制 10/9～12/19、東京オペラシティアートギャラリーでも個展を開催予定。